

# 人の幸せ 地域の幸せに 社会教育ができること

平成29年度 山梨県社会教育研究大会  
講師：野島正也（文教大学学園）

## 1 地域の暮らしで何が問題か？

- ①小さな親密圏、自然体験・社会体験の乏しさ、学力格差、「ぼっち族」
- ②仕事・家事・育児に追われる日々 ～「ワンオペ育児」、「燃え尽き症候群」
- ③「空の巣」症候群 ～子育てが終ったあとの心の空しさ
- ④定年退職後の無為 ～「定年ショック」→ 仕事？ 趣味？ 地域活動？
- ⑤しょんぼり高齢期 ～時間はあっても仲間がない

## 2 「コミュニティ」(Community) とは

- ①「コミュニティ」(地域社会) の考え方
  - ・ケーキに例えれば、コミュニティ＝スポンジ部分+デコレーション部分
  - ・県人会、企業OB会、ネットコミュニティ、国・地域別コミュニティ…
- ②無縁社会化の兆し
  - ・『孤独なボーリング』(Robert Putnam, 2000) が示唆するもの
  - ・「弱いつながり」(Weak Ties, Mark Granovetter, 1973) への注目

## 3 コミュニティ維持・発展の決め手は地域団体

- ①NPO (Non-profit Organization) とは  
営利を目的としない民間組織の総称。ボランティア・グループ、社会教育関係団体等の市民団体、特定非営利活動法人 (NPO法人)

## ②NPOの課題

### ア 「ミッション」(mission) の重視

- ・どのような社会的課題に向き合うかを明示。地域公益の担い手に

### イ 活動情報の公開、透明性の徹底

- ・情報を積極的に地域社会に公開することで、信頼と評価を獲得

### ウ 「協議体」「実行体」としての機能発揮

- ・「リトリート」(retreat) の実施、「エンジェル」(angel) の活用

## 4 社会的包摂 (Social Inclusion) とは

### ①「包摂的社会」の提言 (平成26年9月)

～日本学術会議「いまこそ『包摂する社会』の基盤づくりを」を提言

- ・「社会参加や人との繋がり、社会制度への加入、健康や教育、政治的発言力など、人々と社会の関係性において不利な立場に置かれている個人やグループが存在するという、社会のあり方」に注目し、「すべての人が潜在的に有する能力をフルに発現できる社会 (包摂する社会) の構築に向かう必要がある」。
- ・「家族や既存の地域組織の包摂機能が低下する中で、それらを補う新たな協同性構築の担い手としてはNPO法人が注目されている。」

### ②「一億総活躍社会」のスローガン

第3次安倍内閣の政策スローガン (平成27年10月)。個性と多様性が尊重され、家庭、職場、地域でだれもが活躍でき、生きがいを感じられる社会を目指す

- ・「一億総活躍国民会議」民間議員の菊地桃子氏が「一億総活躍社会」を「ソーシャル・インクルージョン」と置き換えて理解できると発言

### ③誰もが活躍の機会をもてる社会へ

- ・「ミスター・アベレージ」(Mr. Average, 「人並み」) の人間観の見直し
- ・社会的多様性 (Diversity) を認め、すべての人々の能力が最大限に活かされる地域社会の実現に社会教育の人的・物的資源を有効に投入することが求められる

## 5 社会教育委員・関係団体員、行政職員への期待

～人柄、見識、経験を生かして

- ア 社会的多様性の観点から新しい「地域縁」構築に主体的に取り組む
- ・とくにプランナー（提案）、コーディネーター（調整）の役割は重要
- イ 地域協働を念頭に、新しい「地域縁」のための機会の仕掛けを
- ・新しいことに会える機会（知識や体験を通してアクティブな学びを）
  - ・他者と交わる機会（対面コミュニケーションの重視。話し合いの経験）
  - ・他者に認められる機会（→役割を通して自信と相互信頼の獲得を）

### おわりに

私たちの幸せのカタチ—「幸せ」は「仕合わせ」？

～「一人ぼっち」ゼロの地域社会に

MEMO